

国内研究施設紹介

LAB REPORT

信州大学医学部皮膚科学教授

奥山隆平 *Okuyama Ryuhei*

信州大学医学部皮膚科学
ベッドサイドへの
フィードバックを目指して

信州大学医学部がある松本市は、松本城を中心に発展してきた城下町で、街のあちこちに歴史を感じさせる建造物や街並みが残っています。大学からは西に北アルプス、東に美ヶ原高原を望むことができます。美しい自然と豊かな歴史に包まれた環境の中、信州大学皮膚科学教室では「ベッドサイドフィードバック」することを念頭に研究活動を進めています。

膨大ともいえる多数の皮膚疾患があるなかで、臨床の現場ではいずれの疾患も疎かにできません。とはいえ、限られたマンパワーのなかで研究を進めるために、ある程度集中を図らねばなりません。そこで現在、①悪性黒色腫を中心とした皮膚腫瘍、②乾癬を中心とした炎症性角化症、③アトピー性皮膚炎を中心としたアレルギー疾患の3

つを教室の中心テーマとして研究を進めています。

皮膚腫瘍

多くの基幹病院でも同様でしょうが、信州大学でも皮膚癌の方が多数入院しています。入院患者さんの診療を通じて、多くの教室員が悪性黒色腫を中心とした皮膚癌の研究に興味をもって活動してくれています。基礎的なアプローチとしては、いくつかの分子に焦点を当てて発癌の分子機構の解明を試みています。一方、臨床的なアプローチでは、よりダイレクトに「ベッドサイドフィードバック」することを意識して研究を行っています。たとえば、*BRAF*、*NRAS*、*KIT*といった遺伝子の日本人の悪性黒色腫における変異のスクリーニングを行っています。近日、わが国でも使用が可能となると思われ

